

「事業評価・提案会」 を実施しました



11月11日、17日の2日間にお
たり、市役所大会議室におい
て、第6次長期総合計画から
大きな役割を担う『リーディ
ング・プロジェクト』と『都留市総
合戦略』に位置付けられた5分
野のテーマについて、『産、学、
金、労』の有識者及び市民で構
成する評価者と本市職員がコー
ディネーターを交え議論を重
ね、市の取組に対する評価や提
案発表を行いました。
協議の中で出された意見やア
イディアなどを市政に反映さ
せ、総合戦略の実現を目指して
いきたいと考えています。

○評価・提案会協議結果
評価者の皆さまから、それぞれの経験や視点からいろいろな角度で、多数の意見・提言をいただきましたので、その一部をご紹介します。

◆テーマ：移住・定住 【移住促進事業】

- ・山梨県人会連合会・やまなし移住アドバイザーとの連携
- ・移住受け入れ者(市民)への都留市を知る研修会の開催
- ・ふるさと納税特典の拡充(観光メニューなど)
- ・長期間のお試し居住実施

【30歳同窓会開催事業】

- ・Uターン経験者などによる講演会の実施
- ・開催時期の検討(お盆・年末年始)

【都留市PRCM作成・放映事業】

- ・移住者編の強化(シリーズ化)
- ・都留市民の日常・暮らしぶりに焦点
- ・映画・ロケ地紹介(出演者のコメント)
- ・松尾芭蕉のネームバリューを活用

◆テーマ：健康・長寿

【高齢者による居場所づくり事業】

- ・高齢者と学生による世代間交流による運営
- ・住民ボランティア創設による人材育成
- ・活動内容を披露する市内合同イベントの開催
- ・社会貢献度が高く、男性が参加しやすいプログラムの開発

【健康ポイント制度導入事業】

- ・商店街の店舗による健康ポイント手帳の発行
- ・対象年齢の引き下げ(40歳以上)
- ・取り組み内容・口コミを紹介するWEBコンテンツの提供

◆テーマ：環境保全

【河川浄化対策事業】

- ・居場所づくり事業などと連携した河川清掃イベントの開催
- ・浄化槽の管理不全を市でチェックできる仕組みづくり
- ・メンテナンス済の浄化槽へのステッカーの付与
- ・SNSを活用した清掃活動のやる気の向上
- ・水質検査などの目標値の設定
- ・大量不法投棄箇所へのカメラの設置
- ・不法投棄者の公表・通報制度の導入

◆テーマ：子育て支援

【子育て応援店登録事業】

- ・制度設計の再考(施設整備補助の見直し)
- ・特典・サービス重視への転換
- ・働くママ・パパ支援の補助金への転換

【マタニティータクシー利用助成事業】

- ・助成対象の拡大(妊婦健診・退院時など)
- ・マタニティサポート研修などの受講

【子育て世代包括支援センター設置事業】

- ・家族全体で学べるセミナーの開催
- ・働くママへのキャリア支援

【不妊治療助成事業】

- ・子育て世代包括支援センターとの連携
- ・少子化対策として拡充すべき
- ・経済的支援の拡充と心のケアの強化

◆テーマ：商業振興

【市街地商店街活性化事業(じょいつる市場補助)】

- ・市内3大学と連携したイベント企画・運営
- ・定期開催による集客
- ・子どもの職業体験の実施
- ・地域アイドル発掘オーディション
- ・健康ポイントとの連携
- ・県外向けプロモーションの実施
- ・初出店者の出店料免除制度の創設
- ・行政主体から市民主体への転換

■各テーマのまとめのみ掲載しています。
これらの他にも多くの意見、提案をいただき
ました。詳細につきましては市ホームページ
に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

○評価・提案会に参加した感想

外部評価人(有識者)

堀内敏男さん

(一般社団法人都留青年会議所理事長)

職員の方が想いを込めて実施して
いる事業であるので、私も想いを込めて
精一杯、提案をした。今後も市民として、
市の事業をより良くしていくために出来
る限り協力し、地域を良くしていくこと
と改めて考える機会となった。

西脇友子さん

(健康科学大学看護学部教授)

職員の皆さんが非常に熱心に事業に取
り組んでおり感銘を受けた。今回の貴重
な経験を大学の授業などで、学生達に伝
え、活かしていきたい。また、横の繋が
りを大切にして、市の事業間での連携も
図っていただきたい。

降矢結城さん

(山梨中央銀行都留支店長)

市外に居住しているので、市民以外の
視点を意識して意見を出した。都留市
は、CCRC事業など、他の自治体に先
行している事業に取り組んでおり、非常
に素晴らしい。今後も地域活性化に協力
していきたい。

兼子達也さん

(社会保険労務士)

本市の発展・繁栄のため、各担当者が
日々試行を重ね努力していることを肌で
感じた。今回評価者から出た意見をこの
会だけで終わらせることなく、事業に反
映していただきたい。今後も大胆な発想
を持って事業を行っていただきたい。

市民評価人(市民)

田邊眞響さん

(市内在住・二児の母)

普段は主婦で緊張感のない生活をして
いるため、不慣れで自分の言いたい事を
伝えられなかったのが悔しい。しかし、
自分なりに一生懸命考えて発言したの
で、この会が表面上のものに終わること
なく、職員には引き続き頑張っていただ
きたい。

伊藤瑠依さん

(都留文科大社会学科4年生)

4年間、都留市に暮らしているが、知
らないことも多く勉強になった。都留市
には、様々な事に主体的に関わろうとす
ると、受け入れてくれる土壌がある。こ
の会に参加した一員として、今後も都留
市の取り組みや提案を積極的に発信して
いきたい。

○コーディネーターによる講評

司会をしていて、行政マンと研究者
の発想の違いを感じました。これは良
し悪しではないとみています。例えば
ば、都留の名前が全国的に必ずしも知
られていないという話になった時に、
「ではどうすれば？」という発想はもち
ろん当然あり得るものだと思います。
ただ、私など研究者としては、『ツル』
という名称は日本の他のどの場所にあ
るだろうかなどと考えます。

このことについて都留文科大の次
号学報に簡単な記事を書かせてもらい
ましたので機会があったらご覧下さ
い。一見、短期的にはどこに繋がるか
道筋が見えなくとも、一つのことを考
え続けることで、何かのきっかけから
思いもよらぬ事柄との関係が分かっ
てくるような、そうした瞬間が「どうす
れば？」という発想と並行してあるよ
うに念じていきたいと思えます。

COCC (Center of Community = 地(知)の拠点)推進機構とは

大学のあらゆる資産を地域社会の
多様な分野で活用し、学生の
主体的学びを通じて、地域社会との
双方向の連携を進め、大学と地域
社会との新たな発展を生み出して
いくことで地域コミュニティの中核
的存在としての大学の機能強化を
目的としています。



山口 博史さん
都留文科大
COCC推進機構准教授

○コーディネーターの紹介

三重県鈴鹿市出身。三重大学、名古屋
屋大学を卒業後、名古屋大学大学院環
境学研究科にて博士(社会学)を取得。
平成26年10月に公立大学法人都留文科
大学COCC推進機構准教授として着任
されました。

COCC推進機構では、大学で行わ
れる研究・実践の成果を広く一般に
親しみやすいものとすることをめざ
しています。これまで公開講座や学
術交流会の企画を行うかたわら、都
留の地域性を活かした短期教育プロ
グラムの実践などにも取り組みの場
を広げています。

その他、平成26年の大雪について都
留市住民への聞き取り調査を進めて
います。山口准教授から「今後、都留市
民を対象として、大雪と地域生活に
関するアンケート調査を予定しますの
で、市民の皆さまのご協力をお願いし
ます。」とのことでありました。